

弥彦神社茅の輪まつり

左右、左回りですの字

弥彦村弥彦、越後一宮弥彦神社(渡部吉信宮司)は夏越(なご)しの大祓(おおはらい)に向けて、ことしも二十五日から三十日まで拝殿前に直径約二尺の茅の輪を設置。参拝に訪れた人たちは8の字を描くように茅の輪をくぐり、疫病退散、除災招福を祈っている。



拝殿前に設置された茅の輪

大祓は、目(ろ)知らず知らずのうちに犯した罪(な)がれをほらい清めるため、六月と十二月の末日に全国の神社で行われる神事。六月の大祓は「夏越しの大祓」「夏越し祓い」ともいわれ、そのときに「くぐり」の字を描くようにくぐることで、盛夏を迎えるに当たって、疫病退散、除災招福を祈願する。

弥彦神社では六月二十日(土)から大祓当日の三十日(木)までの六日間、「茅の輪まつり」として、境内に茅の輪を設置している。ことしも弥彦神社周辺で刈ってきたカヤやタケなどで茅の輪をつくり、二十五日朝、拝殿前に設置。清祓式を行ったあと、参拝者から茅の輪をくぐってもらっている。茅の輪は直径二尺余りで、木の枠で左右を固定し、枠の両側には高さ五、



くぐり方を讀んで8の字を描くようにくぐる参拝者たち

六尺のタケを立てた。茅の輪の横には茅の輪くぐりの方法を書いた看板も設置した。

ほかの神社では全体をしつかり縄で縛って完全な輪形にするところが多いが、弥彦神社では縄目を見せずにカヤの青々とした葉を生かしているのが特徴。茅の輪の下部を縄でしっかりと固定し、そこから葉先が上を向くように束ねたカヤを左右から組み合わせて、縄目が葉に隠れるように仕上げている。

晴天が続いたため、二日目の二十六日には少しくらい雨。参拝者は絶えず、訪れた人たちは看板を見ながら茅の輪をくぐり、くぐり終わると拝殿に向かって手を合わせた。観光バスの団体客では茅の輪を知らない人も多く、スマートフォンやカメラで茅の輪を撮影している。

五輪峠 根酒店 三條市一ツ屋農新田294 TEL 0256-47-1678

葉先が縮れてきたが、まだ青々としており、さわやかな風が揺れる茅の輪がこの時期だけのさわやかな風情を漂わせている。

二十六日は参拝者は絶えず、訪れた人たちは看板を見ながら茅の輪をくぐり、くぐり終わると拝殿に向かって手を合わせた。観光バスの団体客では茅の輪を知らない人も多く、スマートフォンやカメラで茅の輪を撮影している。

三十日は午後三時から茅の輪の前で大祓式、引き続き茅の輪神事を行い、神職、巫女が続いて参拝者が茅の輪をくぐる。

胎内市を流れる胎内川で二十五日、付近住民から「川で魚が死んでいる」との通報があり、新発田環境センターが現地確認を行ったところ、約二百匹が死んでいるのを確認した。

胎内川で魚

現場の水質の簡易検査で、pH・溶存酸素・シアニン・六価クロム・残留塩素などでは、異常は認められなかった。

ヴァイツタ

弥彦村弥彦のヴァイツタゴカフエで二十九日午後七時から毎月恒例の音楽ライブが開かれる。月末の土曜に毎月開いているマンスリーライブで、今回もアコースティ

胎内市を流れる胎内川で二十五日、付近住民から「川で魚が死んでいる」との通報があり、新発田環境センターが現地確認を行ったところ、約二百匹が死んでいるのを確認した。現場は胎内市高畑地内の胎内川で午前十時四十五分ごろに見つかり、現地調査で体長十センチ程度の魚約二百匹が死んでいる。

降水量は「多い」と平

年並一が四〇%、「少ない」は二〇%の「平年並が多い」が見込まれる。月別の天候は、七月は前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。八月は太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い。九月は高気圧と低気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わる。確率は気温は七月は「低い」が四〇%、「平年並」と「高い」は三〇%の「ほぼ平年並」。八月は「平年並」が四〇%、「高い」と「低い」は三〇%で、「ほぼ平年並」。九月は「高い」と「平